

日本疫学会 学術委員会・理事会企画シンポジウム

テーマ：ヘルスサービス研究 Health Services Research

Chairpersons /座長:

Takeo NAKAYAMA /中山健夫,

Department of Health Informatics, Kyoto University School of Public Health

/ 京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻健康情報学分野

Toshiyuki OJIMA /尾島俊之

Department of Community Medicine and Preventive Medicine

/浜松医科大学健康社会医学講座

疫学は「疾病の病因究明」という大きなゴールに向けて、循環器・がん・高齢者・環境・難病・感染症などの様々な領域で、多くの成果が発表されてきました。日本疫学会学術委員会・理事会では、これまでの歴史・成果の上に立ち、「ヘルスサービス研究」の企画を通して、疫学研究の視野を拡大し、関心を持つ研究者の学術発表・交流の場を広げるために本シンポジウムを企画しました。

“Dictionary of Epidemiology”による「ヘルスサービス研究」の定義は下記の通りです。

Health Services Research … The integration of epidemiologic, sociological, economic, and other analytic sciences in the study of health services. Health services research is usually concerned with relationships between need, demand, supply, use, and outcome of health services. The aim of the research is evaluation, particularly in terms of structure, process, output, and outcome.

「保健サービスの研究における疫学、社会学的、経済学およびその他の分析科学の統合されたもの。保健サービス研究は、保健サービスのニーズ、デマンド、供給、利用及び帰結間の関連性に関するものが普通である。保健サービス研究の目的は評価であり、その評価の構成要素は以下のように区別される。組織、過程、出力、帰結。」

医療・ケア・保健サービスの質、安全性、医療制度の諸課題に対する社会的関心は、近年、急速に増大しています。疫学的手法を活用した「ヘルスサービス研究」は臨床現場から公衆衛生・健康政策(資源配置、システム)を広くカバーすることが期待されます。

日 時:2010年1月10日(日)13:30-15:00

座 長:中山健夫・尾島俊之

シンポジスト:

今中雄一 京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻医療経済学分野 教授

演 題:確認中

松田晋哉 産業医科大学医学部公衆衛生学 教授

演 題:DPC を用いたヘルスサービスリサーチ

筒井孝子 国立保健医療科学院福祉サービス部福祉マネジメント室 室長

演 題:介護保険制度における高齢者分類の方法と行政施策への応用

東尚弘 東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻健康医療政策学分野 准教授

演 題:ヘルスサービス研究の米国における考え方と日本への提言